

菜の花の中に隠れてしまいそう

まるで黄色の海原(三本木)

三本木地域齊田地区にあるひまわりの丘に、約 200 万本の菜の花が咲きそるい、4月29日から5月13日まで「菜の花まつり」が開催されました。見渡す限り黄色に染まった丘は息をのむ美しさで、まるで黄色の海原、別世界を訪れたような心はさびお気にさせてくれます。今年は好天にも恵まれ、たくさんの方が美しい菜の花の海を見に訪れ、過去最高の来場者数を記録しました。

夏にはヒマワリが再びこの丘を黄色に染めます。ヒマワリの季節が、楽しみです。

5月7日、下伊場野小学校の児童が、学校近くの田んぼで田植え体験を行いました。自分たちの生活に深くかかわっている米作りを通し、作業の大変さや楽しさ、喜びを感じてもらうために毎年行われています。当日は天気にも恵まれ、半そで・短パン姿の小学生がどろだらけになりながらも元気よく苗を植えていました。最初はぎこちなかった子どもたちですが、時間とともに作業にも慣れてきて、調子ができた様子。田んぼの水はまだ少し冷たいようでしたが、みんな裸足で一生涯懸命田植えを頑張りました。

裸足で元気に米作り！(松山)



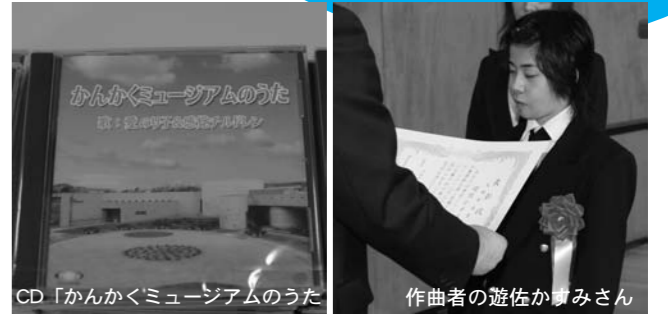
いつも食べている米がどのようにできていくか少しわかったかな？



もう少しで火が付きそう。頑張れ！

古代の暮らしは大変！でも楽しい(古川)

5月3日、4日の2日間にわたり、化女沼古代の里隣の古川出土文化財管理センターを会場に平成18年度に実施した発掘調査のパネル展、火おこし体験、かっ石を使った勾玉づくり体験が行われました。行楽日和の晴天に恵まれ、両日ともに約100人の子どもたちが訪れました。勾玉づくり体験では、1時間ほどの時間をかけてお気に入りの形のものを作り上げ、昔ながらの道具を使った火おこし体験では、汗だくになりながらやっとの思いで火種をおこし、古代の暮らしの大変さを学びました。



CD「かんかくミュージアムのうた」

作曲者の遊佐かすみさん



愛のり子さんと感覚チルドレン

ミュージアムのうたができました！(岩出山)

「人間の五感」をテーマにしたミュージアム「感覚ミュージアム」が開館7周年を向かえました。これを記念して「かんかくミュージアムのうた」が制作され、5月13日に発表会が開催されました。

施設を管理運営しているNPO「オープンハート・あったか」が、地域の人たちや来場者からもっと親しまれるミュージアムになるようにと企画したもので、理事の淡路義宏さんが作詞。「みる、きく、さわる、かおりをかぐ、あじわう、かんじる たのしいな」「せかいにひとつのかんかくミュージアム」など親しみやすく覚えやすい歌詞です。それに合わせた曲を募集したところ7曲の応募があり、県盲学校1年生の遊佐かすみさんの作品が選ばれました。とても楽しいリズムに仕上げられた「かんかくミュージアムのうた」は、登米市の歌手、愛のり子さんと地域の子もたち7人で結成された「感覚チルドレン」が元気に歌い、既にレコーディングも終わりCDも制作されています。

「かんかくミュージアムのうた」とともに、感覚ミュージアムがさらに親しまれていきますように。

5月12日、13日の2日間、田尻農村環境改善センターで「春の山野草展示会」が開催されました。

田尻山野草愛好会が毎年春と秋に開催しているもので、今年で11年目を迎えます。山野草を愛する27人の会員が手塩にかけて育てた約300鉢が展示されました。

当日は、展示会を楽しみにしている地域の人たちが次々に会場を訪れ、育て方のコツを聞いたり、山野草の魅力などを語り合いながら、かれんに咲く草花を優しいまなざしで眺めていました。

かれんな山野草に癒されて(田尻)



かれんに咲く山野草に思わずほおが緩みます



連続受賞、おめでとうございます

環境保全活動が認められました(鹿島台)

シナイモツゴ郷の会が「明日への環境賞」を受賞。特定非営利活動法人シナイモツゴ郷の会が、環境保全への優れた活動をたたえる「明日への環境賞」(朝日新聞社主催)を受賞し、市長に報告しました。1月に平成18年度の「田園自然再生活動コンクール」で農林水産大臣賞を受賞し、今回で連続の受賞となります。地元の自然を守るため、ひたむきに努力してきた会の活動が評価されたものです。希少な魚「シナイモツゴ」が地域で見られるようにシナイモツゴの繁殖や外来魚の駆除など、今日も会の皆さんは頑張っています。



皆さん、新緑の中を気持ちよさそうに歩いています

松尾芭蕉の旅路を歩いて学ぼう(鳴子温泉)

5月13日、「わらじで歩こうおくのほそ道」が開催されました。この行事は、松尾芭蕉が歩いたおくの細道を、歴史を勉強しながら歩くもので、講師の高橋忠治先生の説明を聞きながら、芭蕉の歩いたおくの街道に思いをはせました。鳴子温泉から宮城と山形の県境まで続いているおくの細道(中山越え)は、約10kmあります。時折雨が降るあいにくの空模様となりましたが、参加者の皆さんは休憩をはさみながら、自分のペースで芭蕉の旅路を楽しんでいました。